

失望に対する防御



ティーチング・レター
著者 デレク・プリンス

私が初めてビリー・グラハムの話聞いたのは、1954年ロンドンでのことでした。その礼拝の中で彼が言った一つのことを私は忘れたことはありません。彼は、「神は失望したクリスチャンを用いることは決してありません。」と言ったのです。私はそれを吟味し、理にかなっていないと結論付けました。失望は、確かに当時私自身が直面していた問題であり、ビリー・グラハムがそのように言うことは良くないと考えたのです。

彼は、完全な失望の中にあって酒ぶねの中で小麦を打ちながら隠れていたギデオンを例に挙げました。御使いがギデオンのところに来て、予想もしなかったことを告げました。「勇士よ。主があなたといっしょにおられる。」(士師記6:12)。ギデオンは、御使いが誰に向かって語っているのかと、あたりを見回したでこしょう。なぜなら、彼はミデヤン人を恐れて縮こまっていたからです。主はギデオンとともに行動する前に、彼の持っていたセルフイメージを変えなければならなかったのです。

それは、私たちにも当てはまります。もし、私たちが信仰の目を通して自分自身を見ることができないなら、とても神の奉仕のためにふさわしいとは言えません。別の光に照らして物事を

見ない限り、自分自身への誤った否定的なイメージは、神が私たちのためにしたいと思っておられるすべてのことにおいて障害となるでしょう。私はみなさんに失望に対する聖書の答えと、その種の霊的攻撃への対処法をお話したいと思います。

私たちに必要な備え

エペソ 6 章には、戦いの武具の6つが書かれています。真理の帯、正義の胸当て、平和の福音の靴、信仰の大盾、救いのかぶと、御霊の剣です。これらは、単にかっこいい名称や神学的洞察ではありません。これらは、私たち一人一人が手にすべき非常に具体的かつ現実的なものです。その6つの武具のうち2つを取り上げ、霊的失望の攻撃を阻止する具体的な方法を聖書から分かち合いたいと思います。

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。では、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべてのものの上に、信仰の大盾を取りなさ

い。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すことができます。救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のこばを受け取りなさい。」(エペソ 6:12-17)

私の学んできたことと数多くの現代翻訳に基づいて、最初の節は、次のように読むのがさらに正確であると、私は信じます。

「私たちの格闘は、肉体を持った人間に対するものではありません。」これは、非常に鮮明です。つまり、私たちは人間の存在と闘っているわけではありません。あなたの姑が問題ではなく、さらにはスターリンやヒトラーのような独裁者が問題なのでもありません。

「私たちの格闘は、肉体を持った人間に対するものではなく、権威の領域の支配者に対して、また今現在の暗闇の世界の支配者に対して、天にいる悪霊の力に対してです。」

武具を着ける

私たちは、恐ろしいほどの力を持ち、高度に組織化され、完全に私たちと神、そして神の民の側に立つすべてのものに敵対する見えない霊的人格との闘いに、全面的、徹底的に携わっているのです。彼らの本拠地は天にあり、私たちにあらゆる形で霊的圧力をかけ、どんな方法であれ私たちを打ちのめすのです。その事実の論理的結論として、パウロは13節で言っています。

「あなたは武具を着けなければならない。さもなければ、あなたは敗北者となります。」それは非常に論理的で具体的な結論です。

誰であっても、最初に武具を着けずに、靈的戦いや神の国を建て上げることに関わることは、私はお勧めしません。なぜだと思いますか。私を信じてください。それは、あなたが悪魔を攻撃するとき、悪魔は反撃をし、ルールに従わずに戦ってくるからです。

「ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」(エペソ 6:13)

パウロは邪悪な日が来ることを想定しています。私は、これは大患難のことを言っているのではないと思います。すべてのクリスチャンがそれぞれの邪悪な日を経験するという意味です。イエスが岩の上と砂の上に家を建てた2人のたとえ話をしており(マタイ7:24-27)、イエスは「もし、風や雨が来るなら...」とは言わず、「雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いて...」と言いました。それぞれの家は同じ試練に会いました。

イエスは種まきをする人のたとえを話されたとき、こう言われました。「みことばのために**困難や迫害が起こると...**」(マタイ 13:21)。イエスは、「もし」とは言いませんでした。迫害が来る

ことは当然であるとみなしたのです。すべてのクリスチャンは困難や迫害に会うとき、邪悪な日を経験しなければならないのです。パウロが使徒の働き 14:22 で言っているように、「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみを経なければならない」のです。他の道はありません。

ですから、まず私たちは、しっかりとそれを思いに刻み付ける必要があります。自分が大きな圧力の下での邪悪な時代にいると気づくとき、何かが間違っているという意味ではないことを覚えておいてください。それは、私たちが神のみこころの外にいるという意味ではありません。反対に、私たちが神の国に入る途上にいるという良いしるしでしょう。

パウロが武器として6つ挙げているうちの2つだけについてお話ししたいと思います。胸当てと大盾です。他の4つも不可欠ですが、この学びの目的のためにその2つに焦点を当てたいのです。主に個人的な経験から、その胸当てと大盾の使い方を具体的にお分かちします。

胸当て

初めに、1テサロニケ5章の、エペソ6章と並列している興味深い箇所注目しましょう。

「しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、憤り深くしていきましょう。」(8節)

エペソ 6:14は、「正義の胸当て」と言っていますが、1テサロニケ 5:8では、その正義とは何かをさらに特定して私たちに教えています。それは、自分の努力や良い行ないの正義ではなく、愛によって働く信仰による義です(この信仰のテーマは、これらの武具と守るべきからだに不可欠な器官の中心です)。

胸当てが守る、からだに不可欠な器官とは何ですか。心です。心を防御することは、愛によって働く信仰を通した正義の胸当ての目的です。聖書的信仰は頭の中ではなく、常に心の中にあることを忘れないでください。たとえば、ローマ 10:10は言っています。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」本物の信仰とは、単なる知的概念や神学、教理ではありません。それは、第一のものである、愛によって働く心の信仰です。

これに関連するガラテヤ 5:6 を見てみましょう。

「キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける
受けないは大事なことなく、愛によって働
く信仰だけが大事なのです。」

これはシンプルですが、奥深いことばです。私たちは、クリスチャン生活のすべてにおいて、本当に重要なことは愛によって働く信仰だけであることを決して忘れないでいきましょう。私た

